

# 第5回広域災害医療情報システム (EMIS) 入力訓練要項

テーマ

「桜島大噴火における病院避難／病院ろう城の備え」

# 1:訓練想定

## 【テーマ】

桜島大噴火時における病院避難／病院籠城への備えとして、鹿児島県内医療機関の要避難患者数、受入れ可能病床数、病院内備蓄状況等の情報発信を訓練するとともに、**県内医療機関の実際の現状**を把握する。

## 【はじめに】

桜島は大正大噴火から 100 年以上経過し、始良カルデラの地盤はすでに大正大噴火前のレベルの 9 割まで挙上していると推定されているため、次の大噴火が発生してもおかしくないと考えられている。地震災害や津波災害と異なり、火山災害の特殊性として、前兆現象の把握ができる可能性があること、発災後には受援支援のシステムが麻痺してしまうこと等を勘案しなくてはならない。

今回は大正大噴火と同等レベルの大噴火が予知され、もっとも甚大な被害を引き起こしうる東風の想定とした。

本訓練により、将来的には現実的な大噴火前後の病院避難のあり方と発災後の病院籠城支援のあり方を検討するための**精度の高い資料を得ることが最大の目的**である。

## 【目標】

- 1) EMIS を緊急時入力から詳細入力まで正確に入力する。
- 2) 各病院で、物流が停止して備蓄のみで入院患者の管理を行った場合、何日間病院機能を維持できるかを分析する。
- 3) 物流が再開し、人員・物資の補給が可能となった場合に必要な情報を得る。

## 【訓練日時】

9月19日(木) 12時00分～18時00分

9月20日(金) 12時00分～18時00分

## 2:災害想定

### 【災害想定】

○9月19日（木）

・午前8時30分、桜島の北東部予備南西部での火山性地震及び地殻変動が増加。風向きは東風。

・午前9時00分、第1回桜島火山防災連絡会が開催。

今後の火山状況及び被害範囲の予測について情報共有を行い、今後の対策について確認。

次の開催は、火山活動がさらに活発化の様相を呈した場合に行う。

その際に、想定される噴火規模による被害の影響範囲や、影響範囲からの避難の必要性、手段、タイミング等について検討する事を確認。

・午前9時30分、鹿児島地方気象台からの臨時発表

桜島島内を震源とする火山性地震が増加し、有感地震も増加傾向。

南岳山頂火口や昭和加工から噴火が断続的に発生。

防災関係者は、桜島火山災害への対応準備。

・午前10時00分、鹿児島市、鹿児島地方気象台からの臨時発表

島内の傾斜計で、顕著な地殻変動を観測。火山性地震も再び急増。

桜島付近を震源とするマグニチュード2以上の地震が10回以上観測。

鹿児島地方気象台は、噴火警戒レベル4（避難準備）を発表。警戒範囲を桜島全域とした。

・午前10時30分、鹿児島市は桜島全島に避難準備情報を発表。

島内の桜島病院の入院患者、及び要配慮者は避難を開始。

気象台は噴火警戒レベル5（避難）警戒範囲全島を発表。桜島全島に避難指示を出した。

### 【医療機関の自主避難開始】

**風向きから1m以上の大量降灰が予測される鹿児島市の以下の地域からの医療機関の自主避難を開始。**

【13km圏内（1m以上降灰堆積地域）を含む鹿児島市の町一覧】

荒田、池ノ上町、伊敷1－8、伊敷台1－7、伊敷町、泉町、稲荷町、上荒田町、上之園町、魚見町、宇宿1－9、小川町、小野1－4、小野町、小原町、卸本町、加治屋町、春日町、上竜尾町、上本町、鴨池1－2、鴨池新町、川上町、祇園之洲町、錦江町、金生町、甲突町、高麗町、郡元1－3、郡元町、呉服町、小松原1－2、坂元町、桜が丘1－8、三和町、清水町、下荒田1－4、下伊敷1－3、下伊敷町、下田町、下竜尾町、下福元町、城西1－3、城南町、城山1－2、城山町、新栄町、新島町、新照院町、住吉町、西陵1－8、千日町、草牟田1－2、

草牟田町、大黒町、大明丘1-3、大竜町、鷹1-2、田上1-8、田上台1-4、田上町、武1-3、武岡1-6、玉里団地1-3、玉里町、中央港新町、中央町、鼓川町、樋之口町、照国町、天保山町、東海町、常盤1-2、常盤町、唐湊1-4、直木町、永田町、中町、永吉1-3、南林寺町、西伊敷1-7、西坂元町、西千石町、西田1-3、西紫原町、浜町、原良1-7、原良町、東郡元町、東坂元1-4、東千石町、東谷山1-7、日之出町、冷水町、平之町、広木1-3、船津町、堀江町、本港新町、真砂町、真砂本町、松原町、緑ヶ丘町、南郡元町、南新町、宮之浦町、紫原1-7、牟礼岡1-3、名山町、明和1-5、薬師1-2、易居町、柳町、山下町、山之口町、吉野町、与次郎1-2、若葉町

・午前11時00分、山腹から白い噴気が発生。

桜島西側山腹から噴火。東風 6 m/s の状況。

桜島東側山腹から噴火が始まった。

13 km圏内の自主避難を開始していた医療機関は火山礫降下の恐れがあり、自主避難を中断して患者、医療スタッフとも屋内退避とした。

院外の職員は自宅に退避し登院は困難な状況となり、病院運用は院内に残っていた医療スタッフのみで行う方針となった。

・午前11時30分、鹿児島県くらし保健福祉部から鹿児島県医師会に EMIS 入力依頼有り。

県医師会より、EMIS 登録医療機関宛、FAX 一斉送信にて、入力依頼を送付。

## 【EMIS 入力】

**対象：全ての登録医療機関**

**内容：不明な点は、別紙入力方法ならびに入力動画をご確認下さい**

**緊急時入力（発災直後情報）**

**詳細入力**

※ライフライン・サブライ状況は自院の現状を正確に入力して下さい

※患者状況は、自院の状況を正確に入力して下さい

**【患者色タグの考え方】**

赤タグ：担送（ストレッチャーなどで移動）

黄タグ：護送（車いすなどで移動）

緑タグ：独歩（その他に記載）

※13 km圏内の医療機関

→今後、転送が必要な患者数の入力をお願いします

※13 km圏内以外の医療機関

→今後、受け入れ可能な患者数の入力をお願いします

**入力時間：9月19日（木） 12時00分～18時00分**

## ○9月20日（金）

- ・午前2時00分、爆発音を伴う激しい噴火が始まった。
- ・午前7時00分、鹿児島湾を震源とするM7.1の地震（鹿児島市で震度6強）が発生。
  - ・籠城を余儀なくされた医療機関は大量降灰の重みと地震の影響を受けた。  
昭和56年以前に建築され、昭和56年以降の耐震化が施されていない建物は約30%が一部損壊～全壊。  
昭和56年以降の新耐震基準に適合されている建物は約5%の一部損壊。
- ・午前9時00分、火砕流が発生。  
赤生原、横山一帯に向かい、錦江湾を300mほど進んだところで止まった。  
以後は溶岩が流れ出し、噴火は断続的になった。
- ・午前12時00分、噴火最盛期が終了したものの、鹿児島医療圏、南薩医療圏（北部）、北薩医療圏、出水医療圏、始良伊佐医療圏では、1.5m～1mの降灰堆積があり、全域に交通障害があるため物流は止まっている。  
南薩医療圏（南部）、曾於医療圏、肝属医療圏医療圏では、1.5cm未満の降灰堆積で、通常に近い医療を提供できる環境にある。  
これらの医療圏だけでは避難患者を受入れることがどれだけできるか、EMISの受け入れ可能患者数を集計し、要避難患者数と照らし合わせる必要がある。

### 【EMIS入力】

**対象：全ての登録医療機関**

**内容：不明な点は、別紙入力方法ならびに入力動画をご確認下さい**

**緊急時入力（発災直後情報）**

**詳細入力**

※ライフライン・サブライ状況は自院の現状を正確に入力して下さい

※患者状況は、自院の状況を正確に入力して下さい

**【患者色タグの考え方】**

赤タグ：担送（ストレッチャーなどで移動）

黄タグ：護送（車いすなどで移動）

緑タグ：独歩（その他に記載）

※鹿児島医療圏、南薩医療圏（北部）、北薩医療圏、出水医療圏、始良伊佐医療圏

→今後、転送が必要な患者数の入力をお願いします

※南薩医療圏（南部）、曾於医療圏、肝属医療圏医療圏

→今後、受け入れ可能な患者数の入力をお願いします

**入力時間：9月20日（金） 12時00分～18時00分**